

序

恒例の市立教育研究所の教育論文および実践研究記録の募集には、今年も多数の応募を見ることができました。これは足利地区の先生方の教育研究が、いよいよ充実発展しつつあることを示すとともに、専門職としての実が拳がりつつあることの一つの現われとも見ることができ、まことに頼もしい限りであります。

このたびの応募編数は13編、論文の応募は見られませんでした。それらは、きわめて充実した実践研究の記録によって占められており、今後の各学校の教育実践に示唆を与うるもの、そのまま、とって日頃の指導に役立つもの、あるいは、それぞれの方面に関心をもつ先生方の今後の研究の示唆となるものなど、この論文集が、足利教育研究の豊庫の観があります。

ちなみに、今年度の応募編数13編の範囲とその内訳は、国語科に関するもの、社会科に関するもの、算数科に関するもの、理科に関するもの、道徳に関するもの、特活(クラブ活動)に関するもの、生徒指導、学級経営、教育相談、学校図書館教育に関するもの、各1編、英語科に関するもの3編となっております。

昨年度見られなかったもので今年になって入ったものに、算数、道徳、教育相談などがあり、その範囲が広がりはつつあることは喜ばしいことであります。

さらに今年度の特色として、英語関係が3編の多数を示していることが挙げられます。

なお、特に注目されるのは、この英語がいずれも、視聴覚機器の活用に関するもので、学習の近代化の一環を担うてのすぐれた研究成果を見せていることであります。

いずれにしましても、これらの実践研究は、最も身近かな本地区の現場の学習指導が密着しながらしかも、前進しつづける現代教育の問題点と取り組み、一つの突破口をつくったり、あるいは新たな問題点を明らかにしたり、さらには、新しい視点を開示したり、それを掘り下げ深めたりしているもので、きわめて貴重な研究成果であると言わねばなりません。

これらの貴重なすぐれた研究記録が、より多くの先生方の日々の研究の参考として、いっそうその発展に役立つとともに、各学校における日々の指導活動の中にじゅうぶん生かされるよう念願するものであります。

昭和45年3月

足利市立教育研究所長

大 滝 徳 海